



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.82

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2022.冬・春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



第65回企画展「魅惑のスパイス&ハーブ」 2022年3月19日【土】～5月15日【日】

ラベンダー 玉原ラベンダーパーク

写真提供：黛 恵美子

人々は、暮らしを豊かにするために、様々な植物を食料や衣料、また嗜好品として利用してきました。本企画展は、薬草（生薬）や料理、香料として用いられてきましたスパイスとハーブを紹介します。

スパイスは調味料の一種です。調理の際に香りや辛み、色を出すものの総称で、種子や実、根、樹皮の部分がスパイスとして利用されます。

ハーブは料理の香り付けや保存料、薬、香料に利用されるほか、香りに鎮静、興奮などの作用がある有用植物です。植物の葉や茎のやわらかい部分をハーブとして利用します。

スパイスとハーブは料理に利用されていて身近な存在ですが、知られていないことも多いです。本企画展ではスパイスとハーブの来歴、利用する部位の違い、有用性、効果等を紹介します。また、スパイスの有効成分などを科学的にも紹介します。

スパイスとハーブの知られざる世界とその魅力をみなさまご覧ください。

企画展ワークショップ

各イベントの申込はオンラインで行います。詳細はホームページでご確認ください。

①インド茜を使ってスヌード（おしゃれな筒状のマフラー）を赤く染めよう

3月20日【日】13:30～15:00

(当館実験室)

講師：企画展担当者

定員：12名

大人向け

材料費：3,350円

エプロン持参



②My 七味唐辛子をつくろう

4月3日【日】13:30～15:00

(当館実験室)

講師：七味唐がらしの

吉田七味店

定員：12名

材料費：1,200円



様々なトウガラシの品種

③ハーブが入った石けんをつくろう

4月24日【日】13:30～15:00

(当館実験室)

講師：K's ガーデン倶楽部

定員：12名

材料費：1,050円 エプロン持参

④蜜ろうのキャンドルをつくろう

5月1日【日】13:30～15:00

(当館実験室)

講師：K's ガーデン倶楽部

定員：12名

材料費：1,050円 エプロン持参

What's more?

自然のコラム 月にいる？生き物

月にウサギはいる？もちをついている？

月に生き物としてのウサギはいません。日本では昔から、月の模様を「ウサギのもちつき」に見立ててきました。それでは、月の模様の正体とは何なのでしょう。模様の黒っぽい部分は「海」と呼ばれています。地球のように水があるわけではありません。「海」は月のマグマが吹き出して固まった玄武岩という黒い色の岩石です。この模様が、ウサギのもちつきの姿に見えるわけです。初めて月面に人類が降り立ったアポロ11号が着陸したのは、静かな海といわれる、ウサギの顔のあたりになります。



© 国立天文台

世界各国を見てみると、月にいる？生き物は、もちをついているウサギだけではありません。ウサギ(中国、インドな

ど)、カニ(南ヨーロッパ、中国)、ヒキガエル(中国)、ライオン(アラビア圏)、ロバ(南アメリカの一部)、ワニ(北アメリカ南部、インド)、女性の顔(東ヨーロッパ、北アメリカ北部)、本を読むおばあさん(北ヨーロッパ)、まきをかつぐ人(ドイツ)…。見えている模様は同じですが、地域や文化の違いで、いろいろな生き物が想像されています。

さて、皆さんは月にどんな生き物が見えますか。

7月からは、企画展「宇宙への挑戦」が始まります。「月」に関する展示もたくさんありますので、自然史博物館にも月を見つけにきてください。

(地学研究係 鳥羽 隆敏)



「ウサギのもちつき」

素材提供：国立天文台

「ぐんまの自然の『いま』を伝える」（以下、ぐんまの自然）は今年度、開催14年目をむかえました。現在の、ぐんまの自然の開催の目的は、3つあります。1つ目は、人と人がつながる場の創出です。群馬県内外には、野生生物や自然環境、自然史に係わる様々な調査研究、保護・保全対策を行っておられる団体、研究施設、大学等が数多く存在します。この方々が自然史博物館を会場として参集、つながることを目指しています。2つ目は、新たな活動への視点です。多様な主体がつどい、交流を深める中で、新たな活動への視点、取り組みが発展することを願っています。3つ目は、この「場」を通して、ジオ多様性、生物多様性、自然史を体感し、様々な立場にある一般の方々へ普及し、多様な場に参加するきっかけをつくれたらと考えています。これは自然史に関する新たな担い手が生まれ、その担い手がさらに担い手の輪を広げ、よりたくさんの方々を巻き込んでいきたいと願うものです。

ぐんまの自然は、自然史博物館（自然史調査研究機関）、県自然環境課（自然環境行政）、県立ぐんま昆虫の森（教育委員会）との共催で実施しており、事務局は自然史博物館にあります。連携主体は、国、地方公共団体、地域の活動団体、専門家、研究者、企業、教育機関等、多岐にわたる、官、民、学が一体となって実施する取り組みです。構成パーツは3つあり、1つは特別展です。参加団体の調査研究や活動事例等のポスター、標本等を展示しています。開催期間は1ヶ月ほどです。展示では、展示物と来館者をつなぐ工夫も行っています。2つ目は、報告会です。こちらは特別展オープン初日の午後に開催しており、基調講演と口頭発表で構成しています。3つ目は、随時、状況に応じてワークショップや、シンポジウム等を開催してきました。

ぐんまの自然が現在の形になるまでには紆余曲折あり、開始した2008年以降、現在に至るまで大きくわけると5つの転換期がありました。1つ目は、ぐんまの自然の初期である群馬県野生動物調査・対策報告会のはじまりです。そのきっかけは、一般の方々から「自然史博物館はなにをやっているのか見えない」「行政は対策をしているのか？」等のご意見を多数いただいたことによります。2つ目は、2010年に愛知県で開催された生物多様性条約第10回締結会議（COP10）です。これにより、報告会の内容を生物多

様性に拡大し、多様化することになりました。3つ目は、それまで行っていた写真展から特別展への転換です。これは、報告会の参加団体の方々から、「ポスター展示をもっと長く展示し、一般の方々にもご覧いただくことはできないか？」と多数のご相談を受けたことによります。4つ目は、低予算でできるような設計してはいたものの負担と効果のあり方を踏まえ事業存続の可否について議論がありました。5つ目は、2020年1月以降続いている感染症パンデミックです。特別展にしても、報告会／ポスターセッションにしても、会場の熱気と人の密がウリでしたが（画像1）、「人と人がつながった」実感をつくりだす熱気のある場を設けることが難しくなっています。

ぐんまの自然を継続するにあたり、14年の間に、対象とする内容、関係団体、事業形態、運営体制、運営方法に至るまで、実のところ、初期の原型は何一つ留めていません。言い換えるなら、その時々課題に柔軟かつ順応的に対応することで、継続させることができてきたのかもしれませんが。一方で、頑なに大切してきたのは、参加してくださる方々の声を受け止め、より良くするにはどうしたら良いかというボトムアップ方式を一貫してとってきたことです。いまある関係を深めながら新しい関係も築き、熱意やエネルギーを受け止め、その魅力に学び、ともに歩み、私たちが育ててくださっている関係各所の皆様に感謝申し上げます。そして、いま直面している課題に対し、「人と人」がつながり続けるためにはどうしたら良いのか試行錯誤を繰り返しながら、より良い形を目指していきたいと考えています。

（生物研究係 姉崎 智子）



画像1 基調講演会場 2019

「出前授業のあとに残るもの ～子ども達からのメッセージ～」

- ・昆虫が苦手だったけど、博物館の先生に教わってちょっと好きになりました
- ・先生の話聞いて、虫についてもっと知りたくなりました
- ・次は、博物館の中をじっくり見て博士になりたいです
- ・先生に教わったことをお母さんやお父さんに教えてあげます
- ・おじいちゃんの家にはチョウチョがいるので、今度行ってつかまえてみます



出前授業の様子

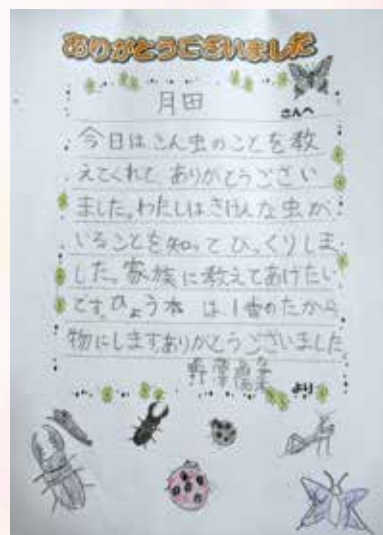
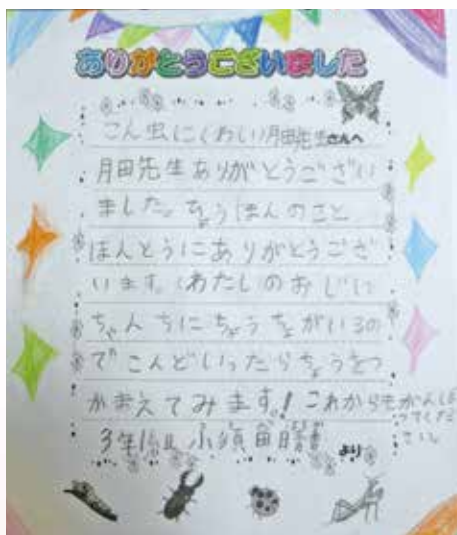
当館では、標本やレプリカ作成キットなどを博物館から持参し、学校、公民館、社会教育施設等に職員が向かい、出前授業を行っています。

出前授業を行った学校などから、お礼のメッセージをいただくことがあります。上記は今年度、藤岡第一小学校3年生を対象に行った「昆虫」がテーマの出前授業の実施後、博物館に届いたメッセージの一部です。

初めて標本を見る経験、初めて知る身のまわりの自然のこと、子どもたちは、彼らならではの感覚で多くのことを吸収してくれます。また、それを何かにつなげようと行動にうつそうとし、頼もしくも感

じます。この感想を書いた児童は、おじいちゃんの家に行って、おじいちゃんと一緒にチョウチョを捕まえたのでしょうか、チョウチョを追いかけながらきとおじいちゃんもお孫さんとの楽しい時間を過ごせたかなと想像します。出前授業を受け、身のまわりの自然に対し興味関心が深まり、博物館に来館する子ども達も少なくありません。今年度も出前授業を行った職員に会いに来てくれた子ども達がいまいました。大歓迎です！

博物館では、今後も出前授業を実施していきます。出前授業のあと、子ども達に何かを残していけるようこれからも努めてまいります。



(教育普及係 橋本 真里子)

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00 (入館は午後4:30まで)
詳細は、ホームページをご確認ください。

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみの開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第65回企画展開催時 (R4.3.19～5.15)	800円 (640円)	450円 (360円)

博物館は事前予約制



*中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。

* ()内は、有料者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.82

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。